

Japanese Society

Hip

2018 9

日本股関節学会ニュースレター 第4号

海外研修帰朝報告 スイス・アメリカ

平成 31 年度海外研修制度と募集要項

第 44 回学術集会を開催して

第 45 回学術集会のご案内

第 4 回教育研修セミナーのご案内

第 28 回大正富山 Award 受賞者

股関節に関する基礎と臨床の研究を通じて
股関節学の進歩普及に貢献することを目的とする

Japanese Hip Society

日本股関節学会ニュースレター

2018/9
第4号

- 3 目次
- 5 理事長ご挨拶
- 7 第44回日本股関節学会学術集会を開催して
- 8 第45回日本股関節学会学術集会のご案内
- 11 第4回日本股関節学会教育研修セミナーのご案内
- 13 第28回大正富山Award 最優秀賞
- 15 第28回大正富山Award 優秀賞
- 16 海外研修帰朝報告
- 19 平成31年度海外研修制度と募集要項
- 20 役員一覧①・新理事よりご挨拶
- 22 役員一覧②
- 24 入会案内
- 26 編集後記



日本股関節学会ニュースレター（第4号）理事長ご挨拶

日本股関節学会 理事長 久保 俊一

京都府立医科大学大学院 運動器機能再生外科学 教授

日本股関節学会は今年で発足から45年目を迎え、日本整形外科学会の中でも、最も大きい関連学術団体の1つに成長いたしました。日頃から学会運営に多大なご協力をいただいている会員の皆様には、深く感謝いたします。

年1回発行しておりますニュースレターも第4号となり、会員相互の情報交流ツールとして定着いたしました。

第4号の注目すべき内容として、海外研修制度2期生の帰朝報告がございます。米国ボストンに3ヵ月、スイスのベルンに2ヵ月研修した2名の先生方のレポートが、写真と共に綴られております。会員の皆様のご賛同とサポートによって、次世代の優秀な人材が国際的な視野を養う様子が伝わり、この制度が有意義で価値ある取り組みであることを確認でき、大変嬉しく思います。

また、大正富山Awardの最優秀賞、優秀賞を受賞した金沢医科大学の福井清数先生、十全記念病院の小山博史先生の受賞コメントもぜひ会員の皆様にお読みいただきたいと思います。今後も、会員の先生方による更なる股関節学の進展を期待します。

第44回学術集会は、東京医科大学の山本謙吾会長が掲げた「Stick to the Basics」というテーマで、股関節学の基本に立ち返って活発に討論を展開しました。続いて今秋10月26日、27日に開催される第45回学術集会は、藤田保健衛生大学の山田治基会長が、「青は藍より出でて」という大変深みのあるテーマをお選びになりました。

股関節学は、整形外科の中で最も古い歴史を持ちますが、最近では、Femoroacetabular Impingement(大腿骨寛骨臼インピンジメント、FAI)という新しい疾患概念が現れ、他の関節に比べ遅れていた鏡視下手術が脚光を浴びるようになっていきます。また、THAや骨切り術に対してもナビゲーションの技術が導入されるなど手術法の発展によって、股関節学が若い先生方に受け入れられ、会員の増加が目立ってきており、大変喜ばしい状況です。「師資相承」とは師から弟子へと法脈が伝えられていくことをいいます。当学会が担うべきベテランから若手への知識と技術の継承を示している言葉だといえます。さらに、「青は藍より出でて」の信念を持つことも大切です。師の知識、技術、経験を超えて、新たな疾患概念や術式の発展をめざすことで、進歩が生まれます。10月、会員の皆様と名古屋国際会議場でお会いすることを心待ちにしております。

第44回日本股関節学会学術集会を開催して

日本股関節学会
ニュースレター



会長 山本謙吾

東京医科大学整形外科学分野 主任教授

第44回日本股関節学会学術集会を平成29年10月20日(金)および21日(土)の2日間、新宿京王プラザホテルにて開催させていただきました。基本に従うことにとどまらず、股関節外科の基本にあくまでもこだわることを強調したいとの思いで本学術集会のテーマを「Stick to the Basics」とさせていただきます。

特別講演としましては久保俊一理事長に「股関節学の展望」と題して我が国における股関節学の発展の足跡、研究の意義と今後進むべき方向性について講演をいただきました。招待講演ではLuigi Zagra先生に人工関節術後感染の診断についてDaniel Kendoff先生にはセラミック人工関節について、Giuseppe Pezzotti先生には人工関節摺動面の将来展望について、岡崎義光先生には人工関節デザインの将来展望について、Jun-Dong Changh先生には大腿骨頭壊死症の現況について、最新の情報をご紹介いただきました。

また、股関節外科医が知っておくべきシリーズとして「股関節の解剖」「股関節手術における合併症対策」「変形性股関節症の基礎知識」「発育性股関節形成不全」「人工関節置換術の手術手技」「特異性大腿骨頭壊死の基礎知識」「股関節鏡手術」を取り上げました。さらにランチョンセミナー、イブニングセミナーとして27題の教育研修講演を企画させていただきました。

シンポジウムでは「特異性大腿骨頭壊死症に関するBasic Knowledge」「人工股関節長期耐用性における課題と展望」「変形性股関節症に対する保存療法のupdate」「股関節のスポーツ外傷・障害のメカニズムと診断・治療」「小児の股関節痛に対する診断と治療」「人工股関節周囲感染症の予防と診断の基本」、パネルディスカッションとして「大腿骨頭部骨折手術の適応と基本手技」「静脈血栓塞栓症のマネジメントの基本」「股関節髌縫合術の適応と手術手技」「グローバルアライメント(脊椎・骨盤・下肢)を考慮したTHA術前計画」「寛骨臼形成不全に起因するOAに対する関節温存手術の適応と長期成績」「人工股関節再置換術の基本手技」を討論いただきました。

演題総数805題のうち医師部門のシンポジウムおよびパネルディスカッションが66題、一般演題は口演461題、ポスター122題、リハビリ・看護部門では口演132題とポスター24題の発表をいただきました。医師部門の最優秀ポスター賞は福岡大学の石松先生、優秀ポスター賞には京都府立医科大学の山本先生と旭川大学の西田先生が選ばれました。

お陰様で2日間で2000名を超える参加があり、盛会裏に学術集会を終えることができました。

会員の皆様を始めご協力いただきました方々に心より深謝申し上げます。



開催告知

第45回日本股関節学会学術集会

今年(2018年)10月26～27日に開催する第45回日本股関節学会学術集会について

会長 山田 治基

藤田医科大学整形外科 教授

第45回日本股関節学会学術集会を平成30年10月26日(金)、27日(土)の二日間にわたり、名古屋国際会議場にて開催させていただきます。我が国における股関節研究の基幹となる本学術集会を当教室で担当させていただくことは大変な光栄であり、このような機会を与えていただきました会員の方々に心より感謝申し上げます。

本学術集会のテーマは「青は藍より出でて」としました。このことわざは荀子の言葉で、「青は藍より出でて藍より青し」が全文です。「藍」とは、染料に使う藍草のことで、藍草で染めた布は藍草よりも鮮やかな青色となるので、その関係を弟子と師匠にあてはめて、弟子が師匠の学識や技術を越えるという意のことわざです。学問や努力により持って生まれた資質を越えることができるということを示すと言われていました。日本の股関節学は過去に大変高名な先生方のご努力、ご指導により大きく発展しましたが、これからもどんどん若手が出て新しい方向へ発展していった欲しい、そのためには若手を育てていくという方向性が重要であるということを示すテーマと考えております。

本学術集会は日本股関節学会が一般社団法人化された後の初めての学術集会となります。一般社団法人となり、国民のかかえる股関節領域の諸問題に対する責任は一段と重くなりました。この点をふまえ、日本股関節学会理事長である久保俊一先生に「法人化された日本股関節学会の課題」と題した特別講演をいただくことになっております。我々、学会員がどのような問題意識をもって進んでいくべきかをご教示いただけたらと思っております。

超高齢化社会に突入した我が国では、我々の努力にもかかわらず股関節の障害により要介護となられる方が急速な勢いで増加しております。一人の医療者の努力により治療できる患者さんの数は限られています。股関節の障害により第一線から退かざるを得なかった患者さんに様々な治療により再度、社会復帰していただくことが我々、日本股関節学会に属する者の責務です。第45回の学術集会が股関節の障害を患う患者さんの治療に少しでも貢献できることを心より願ってご挨拶とさせていただきます。



開催概要

テーマ

—青は藍より出でて—

会期

2018年10月26日(金)～10月27日(土)

会場

名古屋国際会議場
〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区西町1番1号
TEL : 052-683-7711

会長

山田 治基 (藤田保健衛生大学整形外科 教授)

●おもなプログラム

10月26日(金)

特別講演	法人化された日本股関節学会の課題 ◆久保 俊一 日本股関節学会理事長/京都府立医科大学大学院医学研究科 運動器機能再生外科学
招待講演 1	リハビリテーション医学の最前線 ◆才藤 栄一 藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座
招待講演 2	Periprosthetic Fractures after THA ◆Youn-Soo Park Samsung Medical Center, Sungkyunkwan Univ. school of Medicine, Korea
シンポジウム 1	特発性大腿骨頭壊死症の診療ガイドライン
シンポジウム 2	人工股関節再置換術 —わたしの工夫—
パネルディスカッション 1	股関節手術と健康寿命について —手術療法の新たな意義を求めて—
パネルディスカッション 2	人工関節周囲感染 (PJI) の病態・予防・治療の現状と残された課題
パネルディスカッション 3	変形性股関節症の保存療法 運動療法を中心に

10月27日(土)

招待講演 3	Bone Regeneration, Implant Fixation and Osteolysis ◆D. Rick Sumner Rush University Medical Center
招待講演 4	Structural allograft transplantation for the bone defect after resection of the malignant bone tumors ◆Yong-Koo Kang Dept. of Orthop. Surg., PyongTaek St. Mary's Hospital, Korea
シンポジウム 3	境界型寛骨臼形成不全症に対する股関節鏡視下手術
シンポジウム 4	大腿骨形状に応じたセメントレス人工股関節ステムインプラント選択の有用性
シンポジウム 5	40歳以下の進行期および末期変形性股関節症に対する関節温存療法
シンポジウム 6	大腿骨転子部骨折の治療最前線
パネルディスカッション 4	高齢発症ベルテス病 —診療ガイドライン作成に向けての一歩—

第4回日本股関節学会 教育研修セミナーご案内

日本股関節学会
ニュースレター

股関節の専門医を目指す若い医師の育成を目的に教育研修セミナーを企画することといたしました。股関節の外傷や疾患は、小児から高齢者に至るまで幅広く、また、様々な全身疾患や障害とも関係しております。股関節の専門医として適切に診断と治療を行うためには、股関節に関する基礎科学から手術まで幅広い知識が求められます。

本セミナーを通して、多くの若い医師が、これらの専門的な知識を習得して、これからの股関節学会を担ってもらうことを期待しております。

日 時:平成 30 年 10 月 25 日 (木) 10:25 ~ 15:05

会 場:名古屋マリオットアソシアホテル
(〒450-6002 愛知県名古屋市中村区名駅 1-1-4)

参加費:10,000 円

参加数:200 名

単 位:日本整形外科学会教育研修単位が認められております。
各セッション 1 単位、受講単位は 1 日 4 単位まで取得可能です。
受講料 1 単位 1,000 円



申込方法:第 45 回日本股関節学会学術集会「教育研修セミナー」ページより参加登録してください。
<http://www.congre.co.jp/hip45/index.html>

プログラム

10:25 ~ 10:30	開会挨拶 理事長挨拶	高木 理彰 (セミナー担当理事) 久保 俊一 (日本股関節学会 理事長)
10:30 ~ 11:30	I 基礎 モデレーター 中村 琢哉 (富山県立中央病院)	
	1) 骨切り術, THA に生かす股関節のバイオメカニクス	高尾 正樹 (大阪大学)
	2) 人工股関節マテリアルー過去、現在、未来	長谷川 正裕 (三重大学)
11:30 ~ 11:40	休憩	
11:40 ~ 12:40	II 診断と保存療法 モデレーター 内山 勝文 (北里大学)	
	1) 股関節エコーでわかること、できることと基本手技	藤原 憲太 (大阪医科大学)
	2) 股関節疾患の保存 (運動) 療法とリハビリテーション	馬庭 壮吉 (島根大学)
12:40 ~ 12:50	休憩	
12:50 ~ 13:50	III 小児股関節 モデレーター 三谷 茂 (川崎大学)	
	1) 小児の骨折	野田 知之 (岡山大学)
	2) 小児の腫瘍	山本 憲男 (金沢大学)
13:50 ~ 14:00	休憩	
14:00 ~ 15:00	IV 大腿骨頭壊死症 モデレーター 佐々木 幹 (山形大学)	
	1) 大腿骨頭壊死症の基本知識 (疫学、画像、病理、自然経過、病型と病期分類、手術適応、鑑別疾患)	坂井 孝司 (山口大学)
	2) 大腿骨頭壊死症からみた股関節解剖と骨切り術手技	山本 卓明 (福岡大学)
15:00 ~ 15:05	閉会挨拶	久保 俊一 (日本股関節学会 理事長)

第28回大正富山 Award 最優秀賞

日本股関節学会
ニュースレター

第44回日本股関節学会総会において表彰式が執り行われました。



Kiyokazu Fukui

福井 清数

金沢医科大学整形外科

講師

Q1 受賞した研究活動について教えてください。

片側RAOを施行した症例における対側股関節の自然経過を20年以上の長期にわたり追跡調査したもので、どのような症例が20年以上の長期自然経過において関節症の進行を認めるかについて解析し報告させていただきました。

Q2 受賞後の感想をお聞かせください。

これまで私の上司であった西野暢先生や現上司である兼氏歩先生も過去に受賞されている名誉な賞を受賞することができ大変光栄に思っております。

Q3 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

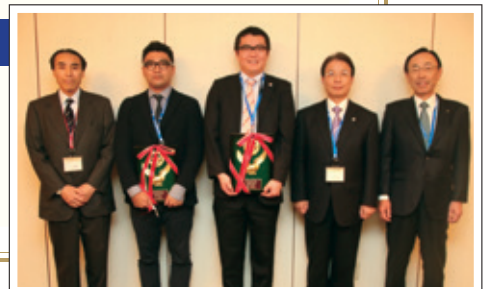
日頃よりご指導賜っている兼氏歩先生はじめ、多くの同僚、同門の先生方からお祝いのお言葉を頂戴しました。また恩師である松本忠美名誉教授がされたRAO症例の検討でこの栄誉ある賞をいただいたことで、恩師に少し恩返しのできたのではないかと考えております。

Q4 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

医師になって18年目を迎えても股関節外科医を名乗っていいのかわか、なかなか自信が持てずに今日までおりましたが、この賞をいただいたことをきっかけに胸を張って股関節外科医であると言えるようになった気がしております。

Q5 今後の展望についてお聞かせください。

新たなテーマを見つけ、また賞をいただけるような研究ができたかと思っております。



第28回大正富山 Award 優秀賞

日本股関節学会
ニュースレター

優秀賞



Hiroshi Koyama

小山 博史

十全記念病院
整形外科・関節センター
整形外科部長

Q1 受賞した研究活動について教えてください。

浜松医大に勤務していたころ、脊椎～骨盤の固定術後に骨盤の前傾が得られたにも関わらず、股関節症が進行する症例を何例も経験しました。そこで、脊椎固定術後でCE角20°未満であった患者の股関節症進行に関連する因子を調査したところ、高齢で胸椎から腸骨まで固定されると股関節症が進行することが分かりました。

Q2 受賞後の感想をお聞かせください。

長年、脊椎の矢状面アライメントと股関節、膝関節の関連について研究してきました。今回の受賞は、研究を積み重ねてきた結果であると思っています。

Q3 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

医療関係者だけでなく、色々とお支えもらった沢山の方々に祝福のお言葉をいただきました。改めて、自分自身の力だけでなく、皆さんの力でいただいた賞だと思いました。

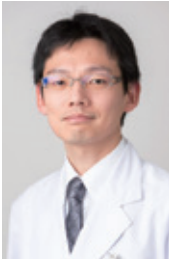
Q4 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

積み重ねることの大切さを実感しました。昨年春から大学を離れ、民間病院に移りましたが、research mindを忘れずに診療をしたいと考えています。

Q5 今後の展望についてお聞かせください。

脊椎、下肢関節症ともには冠状面、矢状面の問題が今まで注目されてきました。これからは水平面(回旋)にも注目して研究を続けていきたいと思っています。

日本股関節学会海外研修制度 帰朝報告



石田 雅史 (いしだ まさし)

京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院 整形外科
京都府立医科大学 運動器機能再生外科学教室 併任講師

京都府出身。
平成14年京都府立医科大学を卒業し、同大学整形外科に入局。
同大学院卒業後、京都第一赤十字病院、舞鶴赤十字病院、
康生会武田病院を経て現職。専門は股関節。
趣味は飲みながら歌うこと。



United States of America

研修先: **Boston Children's Hospital** 研修期間: 2017年6月～8月

Millis先生と手術室で



Kim先生と湖畔の別荘で



私は米国のBoston Children's Hospitalで3ヶ月の研修をさせていただきました。1869年設立のこの病院はHarvard Medical schoolのteaching hospitalで、小児病院としても整形外科部門としても全米No.1の評価を得ています。股関節チームは40歳までの患者を対象に寛骨臼形成不全に対するGanz periacetabular osteotomy、股関節唇損傷に対する鏡視下縫合術、大腿骨頭すべり症に対するDunn変法など幅広い治療を行っています。私はinternational observerとして外来、手術、病棟管理で多くの症例を勉強させていただきました。何人かの患者は初診から退院後の再診までお付き合いでき、論文では伝わらないニュアンスを感じることができました。Millis先生やKim先生からは一例ずつ解説をいただき、ピットフォールも

丁寧に教えていただきました。また、自己鍛錬や若手スタッフの教育についてdiscussionも貴重な経験になりました。ボストンの夏は日照時間が長く、オフタイムも存分に楽しむことができました。音楽や工学など他分野の才能も集まってくる町であり、多くの刺激を受けることができました。このような機会を与えていただきました久保俊一理事長、安永裕司理事、色々な前情報を教えてくださった岡山大学の鉄永智紀先生に御礼申し上げます。



fellow達とFenway Parkで



梶野 良知 (かじの よしとも)
金沢大学附属病院医療安全管理部 特任准教授

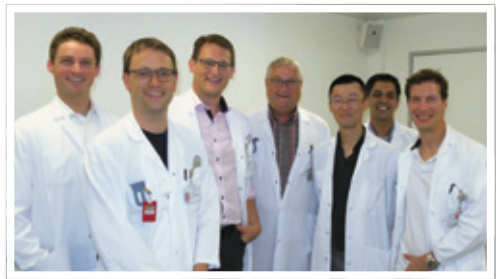
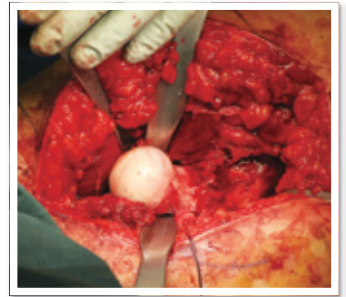
愛知県出身。
2003年金沢大学医学部卒業。
2016年より現職。
専門は、関節外科、コンピューター支援手術、医療安全。



研修先：Orthopedic University of Bern 研修期間：2017年7月10日～9月4日

海外研修制度2期生として、University of Bern, Inselspitalに研修に行かせていただきました。歴代整形外科教授にはAO財団創設メンバーであるMaurice E. Müller教授、periacetabular osteotomy (PAO)を確立したReinhold Ganz教授がおられ2003年にはfemoroacetabular impingement (FAI)の概念を提唱したことで有名な病院です。股関節チームで、外傷から、関節鏡、骨切り、人工関節、再置換術まであらゆる治療をしており、股関節周囲の解剖や画像所見に非常に精通していたのが印象的でした。関節温存手術では、寛骨臼の形態、頸部の形状、前捻角等の関節の構造物を解剖学に正常な範囲内に徹底的に戻すというポリシーにしていました。PAOやsurgical dislocationといった手術を間近で見られたことは、自分自身の大きな財産となりました。Inselspitalの股関節チームのメン

バーは皆、陽気で優しく、居心地も良く、終わってみればとても楽しく、何事にも代えられない経験ができた、あっという間の2か月でした。



日本股関節学会平成31年度 海外研修制度と募集要項

日本股関節学会
ニュースレター

(募集要項)

1) 募集人員	2名
2) 研修条件	<ol style="list-style-type: none">平成32年4月～平成33年3月までの間で滞在期間は3か月未満を原則とする。海外での滞在施設は、希望する研修分野に応じて学会が最も適当と思われる施設を推薦する。ただし応募者が特定施設を希望するときは申し出ることができる。費用について<ol style="list-style-type: none">渡航費用の一部を本学会が援助する。海外滞在中の滞在費、食費及び移動の費用は原則として応募者の負担とする。帰国後、英語と日本語での報告書の提出ならびに学術集会での帰朝報告を行う。
3) 応募条件	<ol style="list-style-type: none">応募者は日本股関節学会会員であること。応募者は日本整形外科学会専門医であること。原則として45歳を応募時年齢の上限とする。勤務している病院または施設の責任者の承諾のあるもの。国際学会での発表の経験があり、滞在施設において発表できる研究成果を有するもの。
4) 応募に必要な書類	<ol style="list-style-type: none">日本股関節学会海外研修申請書 (Word版・PDF版)履歴書 (大学卒業以降とする)応募の動機や抱負について小論文日本股関節学会評議員の推薦状と勤務している大学、病院の施設責任者、勤務先責任者の推薦状 (推薦者は身元保証人に準ずる者と考えること)。業績目録海外研修承諾書<ol style="list-style-type: none">大学勤務 教授の承諾書病院または施設勤務 勤務している病院または施設の責任者の承諾書 <p>以上、1 (申請書) 以外の書式は自由であるが、すべてA4サイズに統一し、上記の順にならべて左上を綴じること。また、コピー14部を同封すること。</p>
5) 選考方	<ol style="list-style-type: none">審査は書類選考とする。書類審査の結果は個別に連絡する。必要に応じて面接を行う予定である。合格者は後日改めて英文の履歴書等、海外施設での研修に必要な書類が求められる。
6) 申請締め切り	平成30年11月30日必着
7) 申し込み先	日本股関節学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F (株) 毎日学術フォーラム内 Tel.03-6267-4550 Fax.03-6267-4555 E-mail.jhs@mynavi.jp



日本股関節学会役員一覧①

日本股関節学会役員をご紹介します。

日本股関節学会
ニュースレター

役職	氏名	所属・職名
理事長	久保 俊一	京都府立医科大学大学院運動器機能再生外科学 教授
副理事長	杉山 肇	神奈川県リハビリテーション病院整形外科 院長
理事	伊藤 浩	旭川医科大学整形外科講座 教授
	川手 健次	奈良県西和医療センター 副院長
	菅野 伸彦	大阪大学大学院運動器医工学治療学寄附講座 教授
	浜藤 啓広	三重大学医学部整形外科教室 教授
	高木 理彰	山形大学医学部整形外科講座 教授
	帖佐 悦男	宮崎大学医学部整形外科 教授
	中島 康晴	九州大学医学部整形外科教室 教授
	馬渡 正明	佐賀大学医学部整形外科教室 教授
	安永 裕司	広島県立障害者リハビリテーションセンター 所長
	山田 治基	藤田保健衛生大学整形外科 教授
	山本 謙吾	東京医科大学整形外科 教授
	山本 卓明	福岡大学医学部整形外科教室 教授
	監事	遠藤 直人
小宮 節郎		医療法人くすのき会 新門整形外科・鹿児島大学名誉教授
学術理事	稲葉 裕	横浜市立大学医学部整形外科 准教授
	大川 孝浩	久留米大学医療センター整形外科・関節外科センター 教授
	神野 哲也	獨協医科大学埼玉医療センター第二整形外科 教授
	高平 尚伸	北里大学大学院医療系研究科整形外科 教授
	中村 琢哉	富山県立中央病院整形外科 部長
	三谷 茂	川崎医科大学骨・関節整形外科 教授



新理事よりご挨拶

新たに就任した学術理事から会員の皆様へのメッセージです。

中島 康晴

九州大学大学院医学研究院整形外科教授 専門分野：股関節外科

本学会の理事にご選出いただき、大変光栄です。学会発展のために尽くしたいと思います。好きな言葉は”never unprepared”、何事もしっかり準備して臨みたいと常々思っています。

山本 卓明

福岡大学医学部整形外科教室主任教授 専門分野：大腿骨頭壊死症、軟骨下脆弱性骨折の病態解析および診断と治療

伝統ある日本股関節学会の理事を拝命し、改めて責任の重さを痛感しております。少しでも本学会の発展に繋がるよう、微力ですが、精一杯務めて参る所存です。どうぞご指導の程、宜しく願いたします。

日本股関節学会役員一覧②

日本股関節学会役員をご紹介します。

日本股関節学会
ニュースレター

名誉会員

赤松 功也
東 博彦
石井 良章
糸満 盛憲
井上 明生
井村 慎一
岩田 久
進藤 裕幸
祖父江 牟婁人
高岡 邦夫
田中 清介
鳥巢 岳彦
内藤 正俊
浜田 良機
稗田 寛
船山 完一
松永 隆信
松野 丈夫
宮岡 英世

評議員

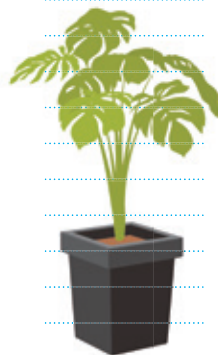
青田 恵郎
赤木 将男
秋山 治彦
阿久津 みわ
阿部 功
安保 雅博
飯田 哲
伊賀 敏朗
池内 昌彦
石井 政次
石堂 康弘
石橋 恭之
市堰 徹
伊藤 浩
伊藤 芳毅
稲葉 裕
今井 晋二
岩崎 倫政
岩瀬 敏樹
岩田 憲
上島 圭一郎
内田 宗志
内山 勝文
江川 洋史
遠藤 直人
梶 賢一
大川 孝浩
扇谷 浩文
大谷 卓也
大塚 哲也
大塚 博巳
大橋 弘嗣
大原 英嗣
大山 正瑞
大湾 一郎
岡野 邦彦
岡野 徹
尾崎 敏文

尾崎 誠
加来 信広
柁原 俊久
片山 直行
金治 有彦
兼氏 歩
金子 和夫
加畑 多文
加谷 光規
苅田 達郎
川手 健次
川那辺 圭一
河村 春生
北川 由佳
金 潤澤
久保 俊一
古賀 大介
小久保 安朗
小助川 維摩
後藤 昌子
小林 千益
小林 直実
小宮 節郎
斎藤 修
斎藤 充
西良 浩一
三枝 康宏
坂井 孝司
佐々木 幹
澤口 毅
穴戸 孝明
島 直子
神宮司 誠也
神野 哲也
菅野 伸彦
杉山 肇
須藤 啓広
瀬川 裕子

高木 理彰
高取 吉雄
高平 尚伸
武石 浩之
田中 歩
田中 栄
田中 千晶
種市 洋
玉井 健介
帖佐 悦男
土屋 弘行
津村 弘
出家 正隆
土井田 稔
徳永 邦彦
中島 康晴
中村 茂
中村 琢哉
中村 健
中村 宣雄
中村 正則
中村 吉秀
名越 智
西井 孝
西田 圭一郎
西山 隆之
野沢 雅彦
長谷川 正裕
蜂谷 裕道
原 俊彦
原田 義忠
兵頭 晃
平川 和男
福田 寛二
藤井 玄二
藤井 英紀
藤岡 幹浩
藤田 裕

学術評議員

青木 清
石田 雅史
大鶴 任彦
大橋 寛憲
岡上 裕介
楯野 良知
鎌田 浩史
後藤 毅
齊藤 正純
山藤 崇
園畑 素樹
高尾 正樹
高窪 祐弥
高田 亮平
田中 健之
千葉 大介
中村 順一
西脇 徹
橋本 慎吾
林 申也
羽山 哲生
福島 健介
藤原 憲太
箕田 行秀
三村 朋大
渡邊 宣之
渡邊 弘之



■ 会員の資格

正会員	医師
準会員	医師以外（理学療法士 作業療法士 診療放射線技師 看護師など）
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）

■ 会費

正会員	医師 10,000 円
準会員	医師以外 5,000 円
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体 50,000 円
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）入会当該年度 みの登録 5,000 円

入会手続き

ご入会を希望される方は、以下より申込書をダウンロードし、所要箇所をご記入の上、FAX もしくは郵送にてお申し込みください。なお、ダウンロードできない場合には、郵送いたしますので、申込先までご連絡ください。手続きに際しては必ず会則をご一読ください。

1. 入会申込書の記入について

- 入会申込書はすべてデータベースに登録しますので楷書ではっきり記入してください。
- 所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入してください。
- 連絡先は会費請求書等の送付先になりますので、所属機関、自宅住所のうち、該当するものを選択してください。
- 準会員での入会の場合は、可能な限り正会員 1 名の推薦をお願いします。
- 推薦者がいる場合は、所定欄に推薦者名をご記入ください。
- 臨時会員の入会は、当該年度 みの登録となります。
例：第 45 回学術集会（リハビリテーション・看護部門）で発表し、Hip Joint 第 45 巻 Suppl. 誌に投稿の場合、当該年度（2018 年度：2018 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日）のみの登録となります。
- 本会の会計年度は、9 月～8 月です。
- 記載された個人情報は本学会の運営業務のみに使用します。

2. 会費の送金方法について

入会申込書をご返送していただいてから、1 ヶ月以内に会費請求書（払込用紙）を発行いたしますので、最寄りの郵便局よりお振り込みください。

3. 入会申込書

正会員・準会員・臨時会員 → HP より pdf ダウンロード
賛助会員 → HP より pdf ダウンロード

4. 自動振込申込について

自動振込をご希望の方は、以下の用紙をダウンロードしてください。所要事項をご記入いただくとともに金融機関届出印を押印のうえ、下記申込先まで郵送してください。

* 入会初年度は、学会事務局よりお送りする年会費請求書（払込用紙）にて送金 手続きをお願いします。自動振込の取扱い は次年度からの適用となります。

* 届出印相違により、自動振込申請ができない場合がありますので、預金口座に使用している届出印をご確認ください。

自動振込用紙 → HP よりダウンロード

申込先：日本股関節学会 会員係

〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9 階
(株) 毎日学術フォーラム内
TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555
E-Mail : jhs@mynavi.jp
URL: <http://hip-society.jp/>

Japanese Hip Society 日本股関節学会ニュースレター

Hip 2018/9 第4号

編集後記

日本全国が記録的な猛暑に包まれた7月、8月が過ぎ、ようやく吹く風に秋の気配を感じる時候となり、皆様ほっと一息つかれているのではないかと思います。日本股関節学会ニュースレターの第4号を発刊する運びとなりました。

本学会の海外研修制度も軌道に乗り、本号でも研修を終えられた先生方からの帰朝報告を掲載させていただきました。さらに次年度の海外研修の募集要項も掲載させていただきました。今後海外研修に応募を考えていらっしゃる皆様のご参考にいただければ幸いです。

また第28回大正富山 Award 最優秀賞ならびに優秀賞を受賞された先生方のインタビュー記事を掲載させていただきました。受賞が新たなモチベーションにつながっていくことや多くの人に支えられ実施してきた研究の積み重ねが認められた喜びを語っておられます。本学会誌であるHIP JOINTへの投稿がますます盛んになり、さらに多くの優れた論文が掲載されるようになっていただければと思います。

また股関節学会学術集会の際に開催しております教育研修セミナーの本年度のプログラムが決まりましたので掲載させていただきました。受講者は年々増加しておりますがセミナーの内容も毎年工夫が凝らされており、何度受講しても大変勉強になる内容です。一人でも多くの股関節学を志す若者のご参加をお待ちします。

このニュースレターの作成にあたっては、多くの会員の皆様からのご意見をいただきながら少しずつ誌面に工夫を加えさせていただいているつもりですが、まだまだ不十分であると感じています。今後も会員に有用な情報をお伝えし、さらに皆様からのご意見を確実に反映できるようなニュースレターの作成に努めてまいりますので、様々なご意見やご希望をお寄せいただければ幸いです。

(担当理事 山本 謙吾)

日本股関節学会ニュースレター第4号 2018年9月号

発行元・お問い合わせ先

日本股関節学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル9階
(株) 毎日学術フォーラム内
TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555
E-Mail : jhs@mynavi.jp
URL: <http://hip-society.jp>